

震災遺児 ツアー実施

石巻など 体験、古里の思い語る

東日本大震災で肉親を失った大学生が「語り部」を務める被災地ツアーが

22、23の両日、石巻市と宮城県女川町であった。復興の現状を知ってもらおうと、学生たちが企画し、被災地を案内しながら

ら、自らの体験や古里への思いを語った。大船渡市出身で祖母と母を失った千葉真英さん(20)は慶応大1年と、父を亡くした石巻市の遠藤見倫(みのり)さん

(20)は石巻専修大2年が発案。呼び掛けに応じた首都圏の会社員ら6人が参加した。

石巻市雄勝町では、津波で流された遠藤さんの自宅跡や、避難生活を送った火葬場などを歩いて巡った。遠藤さんは「病院などもなくなり、古里に戻りたくても戻れないお年寄りも多い」などと説明した。

千葉さんと遠藤さんは、一般財団法人教育支援グローバル基金(東京)の教育支援事業「ビヨンドトウモロ」の活動を通じて知り合い、ツアーを初めて企画した。

千葉さんは「関心はあっても、被災地に来る人たちは多いはず。被災地を継続的に訪れるきっかけとして、今後もツアーができればいい」と語った。



自宅があった石巻市雄勝町を案内する遠藤さん(左)と、ともにツアーを発案した千葉さん(右端)